

「JFA・キリン 熊本復興応援 サッカー教室」を南阿蘇村立両併小学校で開催



キリングループでは、東日本大震災の復興支援活動として2011年7月から「復興応援 キリン絆プロジェクト」を立ち上げ、継続的な支援活動を行っています。その経験を踏まえ、今回、熊本地震の被災地にその活動を広げ、「JFA・キリン 熊本復興応援 サッカー教室」を11月21日（月）から順次スタートしました。

2016年11月22日（南阿蘇村立両併小学校）

心と身体の元気

2回目となるこの日は、前日の南阿蘇西小学校に続き元サッカー日本代表・中西永輔氏をメインコーチに迎え、両併小学校で開催されました。最初は緊張気味だった40名の児童たちも、ジャンケンとランニングを組み合わせたウォーミングアップ、ボールを使った「だるまさんが転んだ」などで体と心がほぐれた様子で、徐々に元気な声が飛び交うようになりました。

その後、低学年・高学年の各男女4チームに分かれ、中西氏らスタッフたちとのミニゲームに挑戦。児童たちの歓声が響く中、終始和やかな雰囲気で行われました。また、ゲーム中に中西氏が披露する一流の技には、児童はもちろん、先生や保護者らからもどよめきが起こりました。

閉会式では、子どもたちがいつでもサッカーを楽しめるようにと、ボールやゴールを寄贈しました。児童代表からの「楽しい思い出になった。今日学んだことを今後に生かしていきたい」とのお礼の挨拶で、この日のサッカー教室は締めくくられました。

コメント①

麒麟ビバレッジ株式会社 九州支社 営業担当 部長代理 佐藤 太

震災から7カ月が経ち、県内ではさまざまな復興イベントが開催されています。私たちも地域のお祭りなどに携わらせていただく機会が増えてきており、先日、益城町で飲料を配布させていただいた際も、「ありがとう」との言葉を多くいただきました。また、今日のサッカー教室でも、子どもたちからたくさんの元気をもらいました。こちらとしても、「ありがとうございます」の気持ちでいっぱいです。



コメント②

麒麟ビール株式会社 熊本支社 営業部 担当部長 小林 成就

東日本大震災の際は山形支社に在籍していました。山形県は直接的被害が少なかったため、復興活動の拠点となった経緯があり、熊本地震後はその経験も踏まえて活動しています。被害の大きかった地域では、まだ営業再開ができていない店、残念ながら廃業された店もあります。これからも地域のイベントやサッカー教室など、当社の復興支援活動を通して、熊本のお客さまに真摯に向き合っていきます。



コメント③

公益財団法人日本サッカー協会 事務局長 福井 一也 様

キリングroupには、1978年からサッカー日本代表を応援していただいています。また、2011年の東日本大震災以降は、サッカーを通じた子どもたちの心と体の元気をサポートする活動も、継続的に行っていただいていることにも感謝いたします。今日、指導を受けた子どもたちの中から、「将来は日本代表になってワールドカップに出場したい」という子が出てきてくれればうれしく思います。熊本地震の被災地支援については、来年以降もJFA独自のプロジェクトはもちろん、キリングroupともさまざまな企画を展開していこうと考えております。



コメント④

南阿蘇村立両併小学校 校長 後藤 利恵子 先生

本校は村内では比較的被害の少なかった校区ですが、それでも3週間の休校を経験しました。通常の学校生活を取り戻していく中、さまざまな団体からご支援をいただき、感謝の念にたえません。特に、キリングroupのサッカー教室は、体育の授業にそのまま取り入れることができ日課や授業時数にもまったく影響なく、素晴らしい経験をすることができました。子どもたちもとてもいい笑顔をしており、このような機会をいただいたことを心から感謝しております。



コメント⑤

元サッカー日本代表 中西 永輔 氏

2011年から「復興応援 キリン絆プロジェクト」に参加させてもらっています。本格的なサッカー教室ではなく、遊びの中で、とにかく楽しく参加できるスタイルを心がけています。そうした体験の中で、子どもたちには「少し頑張ればできる、手が届く」という感覚を味わって欲しい。チャレンジした上での失敗は、必ず次に繋がります。このサッカー教室が、その一歩になれば嬉しいです。熊本の子どもたちの笑顔が、大人や地域を元気にしてくれると思います。

